

赤谷プロジェクト 近況報告

赤谷プロジェクトを支える

もう一つの力 サポーターの取組について

今年の紅葉は、やや遅れたようですが色づきは昨年よりも良かったのではないのでしょうか。紅葉の「赤谷の森」に、今月も20人程のサポーターが様々な地域から集まり、さわやかな汗をかかれました。

赤谷プロジェクトでは、プロジェクトの理念に共感し、プロジェクトの目標実現にボランティアで協力頂ける方を対象に、プロジェクト・サポーターを募っています。そして毎月の第一土曜日、日曜日を「赤谷の日」と名づけ、「いきもの村」を中心に様々な活動を行っています。

「赤谷の日」の活動内容は、自然環境のモニタリング調査として、ホンドテンの調査、広葉樹の結実豊凶調査、猛禽類調査、センサースカメラによる調査などがあります。

また、地元の方を講師に招いた炭焼き、炭俵作りを通して森と人のかわりを考え、さらに、環境教育の拠点としての「いきもの村」等の整備も行っています。サポーターはこれらの活動の中から興味を持ったメ



ホンドテンのモニタリングの様子

ニューを選び参加します。さらに、こんなことをやってみたいというものがあれば、提案していくことも出来ます。

赤谷プロジェクトのホームページには毎月の活動報告が載っていますので、興味を持たれた方はご覧下さい。そして、「赤谷の日」の活動に参加してみませんか。皆様の参加をお待ちしています。

赤谷の森の

自然散策について

この取組は、赤谷センターが主催となり昨年からは始まった活動です。今年も季節により様々な姿を見せる「赤谷の森」を近隣の方に知ってもらおうと、春、秋、冬の3回を企画しています。今回は、紅葉の赤谷の森

で自然散策を実施しました。

自然散策が行われたのは赤谷プロジェクトで主として環境教育のための研究及び実践のエリアとして位置づけられているエリア2の小出俣沢沿いの森林です。

最初に「赤谷の森」について、そしてこの森を舞台に進められている「赤谷プロジェクト」について、その概要を解説しました。続いて紅葉真っ盛りの森林の中を、紅葉の仕組みや周辺の植生等の話を交えるなど、森林の役割や生態系について解説を行いながら歩きました。

また、散策路の途中には昨年、プロジェクトで設定した試験地があります。カラマツ林を帯状に伐採し、自然に復元して行く過程を動植物相の変化からモニタリングしているも



結実豊凶調査の様子



自然散策では大カツラの前で記念撮影

ので、ここではプロジェクトで行っている自然再生の取組について解説することができました。

この他、溪流沿いに広がる二次林では、木登りの際にできたクマのツメ跡など森に残された動物の痕跡やかつて薪炭林として利用されていた証しともいえる炭窯跡を案内し、動物と森林の関わり合いをはじめ、過去における人と森林とのつながりにについても解説を行いました。

散策終了後のアンケートでは、プロジェクトの取組に関心が持てた、また機会があれば赤谷の森を訪れたい、などの意見が寄せられました。

なお、今回の自然散策は来年の2月を予定しています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)